

令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第3号

令和2(2020)年6月19日
栃木県農業環境指導センター

気温の上昇による病害虫の発生増加に注意しましょう。

予想期間 6月下旬～7月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠 ・向こう1か月の平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は平年並～多い見込み。(－)
- (3) 対 策 ・葉いもちの初発時期(6月第4半旬～6半旬)にほ場をよく見回り、早期発見に努める。
・発生が見られる場合は、ブラシフロアブル等予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [BLASTAM\(いもち病発生時期予測システム\)](#)の情報、[いもち病薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠 ・ヒメトビウンカ第一世代幼虫の生息密度はやや少ない(平年比41%)。(－)
・本虫のウイルス保毒虫率は平年並(県平均6.1%、平年比90%)。(±)
- (3) 対 策 ・ウイルス保毒虫率が高い地域や、箱施用剤を使用しなかった場合は、本田地防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース\(速報No.3\)](#)をHPに掲載中。

3 いちご(親株床・育苗) 炭疽病

- (1) 発生予想 ・発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比283%：ほ場率、平年比－：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は平年並～多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・胞子がかん水のしぶきに混じって飛散、伝染するので、頭上かん水は控え、点滴チューブを用いるなど、できるだけ水の跳ね返りのない方法でかん水を行う。
・発病してからの防除は困難なので、予防を主にベルコートフロアブル等を散布する。
・発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分し、速やかに治療効果のあるサンリット水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [炭疽病薬剤感受性検定結果](#)をHPに掲載中。

4 いちご(親株床・育苗) ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比86%：ほ場率、平年比55%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・気門封鎖剤や天敵製剤を活用するとともに、化学農薬のローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。
・気門封鎖剤は、5日程度の間隔をおき複数回散布する。
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [ハダニ類薬剤感受性検定結果](#)をHPに掲載中。

5 野菜類・花き類 アザミウマ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・6月第1半旬までの青色粘着板への成虫の誘殺数は平年並。(±)
・きゅうりでの発生量はやや少なく、なすでは平年並、きくではやや少ない。(－～±)
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、ほ場内外を除草する。
・施設栽培では開口部に防虫ネットを張り、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
・発生初期から薬剤を散布する。薬剤感受性の低下を防ぐため、同系統薬剤の連続散布は避ける。
- (4) 備 考 ・アザミウマ類はウイルス病の病原ウイルスを媒介する。
・ [アザミウマ類薬剤感受性検定結果](#)、[検定結果\(続報\)](#)をHPに掲載中。

6 なし 黒星病

- (1) 発生予想 ・発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比 147%：ほ場率、平年比 17%：葉率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は平年並～多い見込み。(一)
- (3) 対 策 ・発病した葉や果実は伝染源となるため、摘み取ってほ場外で処分する。
・発生初期から病害が広がらないよう薬剤を散布する。薬液は十分な量を、かけむらがないよう丁寧に散布する。
- (4) 備 考 ・[黒星病薬剤感受性検定結果](#)、[植物防疫ニュース \(No. 4\)](#) をHPに掲載中。

7 果樹類 カメムシ類

- (1) 発生予想 ・発生量：多い
- (2) 根 拠 ・6月第1半月までのフェロモントラップへの総誘殺数は県内6か所中4か所の調査地点で過去10年間で最も多い誘殺数である。(+)
・本年はスギ・ヒノキの球果量が少ないため、餌が不足し、7月以降の山林からの飛来時期が早まり、飛来量が増えるおそれがある。(+)
- (3) 対 策 ・ほ場をよく観察し、飛来が確認されたら防除する。飛来は長期間続くため、残効期間の長い合成ピレスロイド剤や、忌避効果が期待できるネオニコチノイド剤を効果的に使用して防除する。
・有袋栽培では、袋掛けを早めに行う。
・多目的防災網(4mm目合以下)をまだ展張してないほ場では、速やかに展張する。併せて隙間がないように注意する。
- (4) 備 考 ・山林に隣接するほ場や、過去に多発したほ場では特に注意する。
・[植物防疫ニュース \(No. 2\)](#)、[注意報第1号](#)をHPに掲載中。

8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	うどんこ病	やや少	少	野菜類	ハスモンヨトウ	やや多	多
トマト	コナジラミ類	やや少	平年並	なし	ナンヒメシクイ	平年並	やや多
きゅうり	コナジラミ類	多	多	ぶどう	べと病	少	少
野菜類	アブラムシ類	平年並	やや多	きく	白さび病	多	やや多

○うめ・もも・すもも・さくら クビアカツヤカミキリ(特定外来生物)

- ・成虫や、幼虫が出すフラス(木くず)を発見したら農業環境指導センターまで御連絡ください。
- ・[クビアカツヤカミキリ注意喚起チラシ](#)、[植物防疫ニュース \(No. 1\)](#)をHPに掲載中です。

○飼料用トウモロコシ等 ツマジロクサヨトウ

- ・早期発見が重要なので、疑わしい虫を見つけたら農業環境指導センターまで御連絡ください。
- ・[ツマジロクサヨトウに注意しましょう](#)をHPに掲載中。

○ほ場周辺の除草は害虫防除の基本です!

- ・水田畦畔の雑草や水田内のイネ科雑草、ホタルイ等は斑点米カメムシ類の誘引源となります。
- ・野菜類や花き類でも、ほ場内外の雑草はハダニ類、アザミウマ類やアブラムシ類の発生源となります。

6月1日から8月31日の3か月間は「**農薬危害防止運動実施期間**」です。農薬は適正に管理し、使用に当たっては、**容器のラベルをよく読み、周辺環境に配慮し、正しく使いましょう。**

1か月気象予報(予報期間6月20日から7月19日 6月18日気象庁発表)

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項 目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	30%	60%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間	20%	40%	40%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)でも御覧になれます。